

教 科 名		国語	科目名	現代文B		単位数	3 単位
対 象 学 年		3 年特進	履修形態	必修	科目コード		
科 目 の 目 標		近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。					
学習内容の概要		(ア)文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。 (イ)文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。 (ウ)文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。 (エ)目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。オ語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
		国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読むんだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。	
評価方法		・行動の観察(学習活動への参加姿勢や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)	・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)	・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート、レポート、感想文などの作成した文章) ・定期考査	・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート) ・定期考査	・行動の観察(学習活動における発言内容) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート) ・定期考査	
教科書、教材など		東京書籍『精選現代文B 改訂版』、『精選現代文B 学習課題ノート』(準拠ノート)、常用漢字ダブルクリア、新国語便覧					
授 業 形 態		一斉授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価
1	4	評論 1	現実と仮想	4	・脳科学や言語・記号論についての文章を読み、思索を深める。		定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5	小説 1	言語と記号 赤い繭	4 6	・心象風景を描いた小説の読み取りを通じて、洞察力を養う。		
		中間考査		1			
	6	評論 2	テスト見直し・解説 他者の声 実在の声 鏡の中の現代社会	1 1 5 5	・他者や異文化世界についての文章を読み、さまざまな見方があることを知る。		
2	7	期末考査		1			
		随想	テスト見直し・解説 受検対策	1 2			
	8		クレールという女	1 6	・個性的な内容の随想を読むことをとおして、感性や心情を豊かにする。		
	9	評論 3	垂直のファッション、水平のファッション	7 5	・人間におけるファッションや文学の役割について、複数の視点から考える。		
3	10	評論 4	グローバル化のゆくえ	1	・空間的、時間的に異なる世界について論じた文章を読み、思索を深める。		
		中間考査		1			
	11	評論 5	テスト見直し・解説	1			
		【現代文】 センター試験演習	サッカーにおける「資本主義の精神」	5 15	・現代の問題について考えを深め、筆者の主張について論理的に評価する。 ・センター試験 8 割をコンスタントに取れる力を身につける。		
	12	期末考査		1			
		【現代文】 センター試験演習	テスト見直し・解説	1			
	1		テスト見直し・解説	12 1	・センター試験直前対策をとおして、現代文を総復習し、確実に理解を深める。		
		学年末考査		1			
備考：			合計	90			

教 科 名		国語	科目名	古典B		単位数	4 単位
対 象 学 年		3 年特進	履修形態	必修	科目コード		
科目の目標		古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。					
学習内容の概要		(ア) 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。 (イ) 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。 (ウ) 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。 (エ) 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。 (オ) 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度 古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	話す・聞く能力	書く能力	読む能力 古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。	
評価方法		・行動の観察(学習活動への参加姿勢や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)			・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート) ・定期考査	・行動の観察(学習活動における発言内容) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート) ・定期考査	
教科書、教材など		数研出版『古典B 古文編／漢文編』，古典B準拠ワーク 古文編／漢文編，古典Bノート古文編／漢文編，体系古典文法，漢文学習必携，全訳古語辞典，新国語便覧					
授 業 形 態		一斉授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価
1	4	【古文】 物語	源氏物語 『光源氏の誕生』 『小柴垣のもと』	8	・語句や表現に注意して文脈をとらえ、「一の皇子」と「玉の男皇子」に対する帝の接し方の違いをまとめる。 ・和歌に描かれている情景を、表現に注意して読み、登場人物の状況をとらえる。		定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5	中間考査	テスト見直し・解説	8 1 1			
	6	【漢文】 史伝	史記『鴻門之会』剣舞 頭髪上指す 『四面楚歌』	8 8 4			
	7	期末考査	テスト見直し・解説	1 1			
2	8	【古文】 随筆(二)	『項王自刎』	4	・項羽が江東に帰らなかった理由について、自分なりの考えを形成する。 ・「無常」に対する作者の考えを読み取り、共感したり、疑問に思ったり、思索したりする。 ・主題を表している一文を抜き出し、作者がそのように考える根拠について考察する。 ・作者が心ひかれていることを読み取り、共感したり、疑問に思ったり、思索したりする。		
	9		方丈記 『ゆく河の流れ』 徒然草 『あだし野の露』 『九月二十日のころ』	4 4 4 4			
	10		テスト見直し・解説	1 1			
	11		【漢文】 文章	『春夜宴桃李園序』			
3	12	【古文・漢文】 センター試験演習 期末考査	テスト見直し・解説	30 1 1	・センター試験8割をコンスタントに取れる力を身につける。		
	1	【古文・漢文】 センター試験演習		20	・センター試験直前対策をとおして、古典を総復習し、確実に理解を深める。		
		学年末考査		1 1 4			
		国公立二次・私大演習					
備考：			合計	120			

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3 単位
対象学年	3年健総・調理	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	(ア)文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。 (イ)文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。 (ウ)文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。 (エ)目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。オ語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度 国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	書く能力 必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	読む能力 近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	知識・理解 言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察(学習活動への参加姿勢や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)	・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)	・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート、レポート、感想文などの作成した文章) ・定期考査	・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート) ・定期考査	・行動の観察(学習活動における発言内容) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート) ・定期考査
教科書、教材など	三省堂『明解現代文B』〔改訂版〕(第3学年では第Ⅱ部を扱います)、『明解現代文B学習ノート』〔改訂版〕、常用漢字ダブルクリア、国語便覧				
授業形態	一斉授業				

年 間 授 業 計 画								
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価		
1	4	随想一	春の小川の思い出	6	・幼い頃の思い出をとおして描かれる、友達との交流の様子を読み取る。 ・具体例とそれに対する考えとの関係を捉えながら、筆者の意図を捉える。 ・閉じ込められた山椒魚の、外の動物との交流による思いの変化を読み味わう。 ・筆者の主張を捉え、科学という方法がどのようなものであるのか考える ・漢字検定に向けて、自らの目標級に向かって準備をする。 ・漢字の読み書きを習得する。 ・自分の将来に向けて必要な自己PRの方法について興味をもち、自分の良さをアピールし伝えていく。 ・筆者のいう〈世界〉や〈聖域〉とは、どのようなものなのかを考える。 ・なまけものの姿をとおして語られる文明批評の精神について考えを深める。 ・主人公の生き方や人間の運命について考えを深める。 ・私たちにあってあるべき「自由」について、考えを深める。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価		
	5	小説一	千年の時が与えてくれる安堵	6				
	1							
	6	評論一	科学的というのはどういう方法か	6				
	7	随想二	テスト見直し・解説	1				
	1							
	8	話す・聞く	自己PRをしよう	2				
	9	随想二	コモリン岬	6				
	10	小説二	なまけもののコンプレックス	7				
	1							
	11	評論二	「自由」のはき違え	8				
	12	随想二	テスト見直し・解説	1				
1								
2	1	状況と人間	十五歳の東京大空襲	9	・「時間」や「未来」とは何かについての確認をとおして、「現在」の在り方を考える。 ・戦争の状況を捉え、平和について考えを深める。 ・十五歳の少年が経験した東京大空襲の記録を読み、自分の意見を文章で表現する。			
	2	書く	自分の意見を書こう	2				
	備考：			合計			90	

教 科 名		地理歴史	科目名	地理演習	単位数	3 単位
対 象 学 年		3 年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標		現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養う。				
学習内容の概要		(1) 現代世界の特色と地理的技能 現代世界の地域性や動向を地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献など地理的情報の収集、選択、処理など作業的、体験的学習を通じてとらえ、諸資料の地理的情報化や地図化などの地理的技能を身につける。 (2) 地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 異文化理解及び地理的課題の取組みに重点を置いて、それらの地域性を踏まえて追求し、現代世界の地理的認識を深め、地理的な見方、考え方を身につける。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
		地理的内容、現代社会的な内容の因果関係など、現代世界の諸課題に対する関心をもち、主体的・意欲的に学習活動をしている。	地理的事象（地形、気候など）を多面的・多角的に比較・考察した上で、その結果を的確に発表する。	ワークノート、プリントの作業諸課題に関する諸資料を見学・収集し、吟味・考察してその成果を適切に年表・地図などに表現する。	世界地理と現代の諸課題の因果関係を公正に読み取る能力と近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることのできる能力を身につけることができる。	
評価方法		授業中の取り組み状態や、発問に対する答え方。ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	因果関係を追及しようとする姿勢や、授業中の発問に対する答え方や、答えを探すなど、答えを導き出そうとする。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	
教科書、教材など		「新詳地理B」（帝国書院） 「新詳高等地図 帝国書院編集部編」（帝国書院） 「新編地理資料 2018（とうほう）」				
授 業 形 態		一斉授業				
年 間 授 業 計 画						
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法
1	4	2 部 現代世界の系統地理的考察	5 節 世界の工業	28	○世界の工業について、工業の発達過程や種類、現状と課題を考察する。また、日本の工業の特徴と課題を考察する。	【関心・意欲・態度】授業への参加度やノート作成 【資料活用】年表や地図の作成 【思考・判断・表現】レポートの作成・発表 【知識・理解】小テストや定期考査
			1 工業の発達と種類			
			2 工業の立地とその変化			
			3 世界の工業地域			
	5	1 学期 中間考査	4 現代世界の工業の現状と課題	26	○第3次産業について、その特徴や発展の背景、地域差などをとらえるとともに、世界と日本の観光業の特徴を考察する。	
			5 日本の工業			
			6 節 第3次産業			
			1 第3次産業の発展			
	6	1 学期 期末考査	2 多様化する観光産業	35	○世界を結ぶ交通・通信について、交通機関の種類や特徴をとらえ、通信の発達による世界の一体化と地域差を考察する。	
			3 日本の観光産業			
			7 節 世界を結ぶ交通・通信			
			1 世界の交通網			
7		2 情報と通信の発達	16	○現代世界の貿易と経済圏について、進展する国際分業の現状と課題、経済連携の動向を考察する。また、現代世界における日本の貿易の現状と課題を考察する。		
		8 節 現代世界の貿易と経済圏				
		1 私たちの生活を支える貿易				
		2 国際分業の発達と貿易の地域間格差				
8		3 貿易の自由化と経済連携	16	○世界の人口について、その分布の特徴や動態、人口構成や人口転換を考察する。		
		4 日本の貿易の現状と課題				
		3 章 人口、村落・都市				
		1 節 世界の人口 2 節 人口問題				
9	2 学期 中間考査	1 世界の人口問題	16	○人口問題について人口問題を大観し、発展途上国と先進国について、その要因や対策をとらえる。また、日本の人口問題の課題と解決への取り組みを考察する。		
		2 発展途上国の人口問題				
		3 先進国の人口問題				
		4 日本の人口問題				
10		3 節 村落と都市	16	○村落と都市について、その立地条件や発展の背景、村落や都市がもつ機能と人間生活のかかわりを考察する。		
		1 集落の成り立ち				
		2 村落の形態と機能				
		3 都市の機能と生活				
11	2 学期 期末考査	4 節 都市・居住問題	16	○都市・居住問題について、世界の都市・居住問題を大観し、発展途上国と先進国のそれぞれについて、その要因や対策をとらえる。また、日本の都市・居住問題の課題と解決への取り組みを考察する。		
		1 世界の都市・居住問題				
		2 発展途上国の都市・居住問題				
		3 先進国の都市・居住問題				
12		4 日本の都市・居住問題				
3	1			16	○都市・居住問題について、世界の都市・居住問題を大観し、発展途上国と先進国のそれぞれについて、その要因や対策をとらえる。また、日本の都市・居住問題の課題と解決への取り組みを考察する。	
2	2			16	○都市・居住問題について、世界の都市・居住問題を大観し、発展途上国と先進国のそれぞれについて、その要因や対策をとらえる。また、日本の都市・居住問題の課題と解決への取り組みを考察する。	
3	3			16	○都市・居住問題について、世界の都市・居住問題を大観し、発展途上国と先進国のそれぞれについて、その要因や対策をとらえる。また、日本の都市・居住問題の課題と解決への取り組みを考察する。	
備考：			合計	105		

教 科 名		地理歴史		科目名	日本史 A		単位数	3 単位	
対 象 学 年		3 年健総・調理		履修形態	必修	科目コード			
科目の目標		近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などに関連付けて考察することによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。							
学習内容の概要		(1) 開国以後、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程を、国際環境と関連付けて理解する。 (2) 第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終結までの我が国の状況について、国際情勢と関連付けて考察する。 (3) 第二次世界大戦後の民主化と復興、国際社会への復帰、経済の発展と現代の日本について、世界の動向と関連付けて考察するとともに、我が国の課題と役割について考察する。							
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解				
		我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究することができているか。	我が国の歴史の展開から世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、公正に判断できるか。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現できるか。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けているか。				
評価方法		授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	定期テスト・小テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題および定期テストにより評価する。	定期テスト・小テストおよび課題により評価する。				
教科書、教材など		「高等学校 日本史A 新訂版」(清水書院)							
授 業 形 態		一斉授業							
年 間 授 業 計 画									
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)			評価 方法	
1	4	第1編 近代の日本と世界	第1章国際環境の変化と幕藩体制の動揺	8	・江戸時代末期における近代の萌芽及び、幕藩体制の変容といった国内事情と、欧米諸国のアジアへの進出などの世界的動向を関連付けて総合的に理解する			観察 発表 課題 ノート 考査	
	5	中間考査							
	6		第2章明治維新と近代国家の形成	14	・開国以後、明治維新を経て欧米文化の影響を受けながら近代日本が近代国家として成立し急速に形成された過程を、国際環境と関連付けて具体的に把握する。				
	7	期末考査	第3章立憲政体の成立と国際的地位の向上	16	・条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係の変化及び産業革命の進行に着目し、我が国の対外政策の推移と近代産業の成立について理解する。				
2	8	第2編 大戦期の世界と日本	第1章第一次世界大戦と日本	15	・政党政治の推移と大衆文化の形成について考察するとともに、第一次世界大戦前後の国際情勢や日本の大陸政策、国際的な協調体制の成立などに着目し、我が国の外交政策を考察する。			観察 発表 課題 ノート 考査	
	9	中間考査							
	10		第2章第二次世界大戦と日本	15	・第二次世界大戦が世界の諸国家・諸民族に未曾有の惨禍をもたらし、人類の文化と生活を破壊したことに着目し、平和で民主的な国際社会の実現に努めることの重要性を自覚する。				
3	11	第3編 現代の世界と日本	第1章戦後政治の動向と国際社会	10	・第二次世界大戦後の国際関係の推移に着目して、我が国の再出発及びその後の政治の推移について考察する。			観察 発表 課題 ノート 考査	
	12	期末考査	第2章経済の発展と国民生活の変化	10	・独立後の日本を取り巻く国際情勢について着目し、平和条約締結と新しい外交関係の確立、日本経済の発展と国民生活の向上について考察する。				
	1		第3章現代の日本と世界	7	・現代社会の動向と日本の課題及び役割について考察する。				
		学年末考査							
備考：			合計	95					

教 科 名	公 民	科目名	現代社会	単位数	2 単位
対 象 学 年	3 年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	(1) 現代に生きる私たちの課題 現代社会に対する関心を高めるとともに、課題を設けて倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から主体的に追求する力を身に付ける。 (2) 現代の社会と人間としての在り方生き方 現代社会について社会的、経済的、政治的及び国際的な視点から理解させるとともに、青年の生き方、経済活動の在り方、民主社会の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方などについて考察する。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	現代社会の諸問題を取り上げ課題を設けて、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追求しようとする。	現代社会を様々な角度からとらえ、青年、経済人、主権者、国際社会における日本人など様々な立場から人間としての在り方生き方を考えることができる。	現代社会の諸問題に対して調査、分析を通して社会的現象を総合的にとらえようとする。	広い視野に立ち、現代の社会基本的な問題について主体的に考え公正に判断する良識ある公民としての資質を身に付けている。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題およびテストにより評価する。	テストおよび課題により評価する。	
教科書、教材など	「改訂版 高等学校現代社会」(数研出版) 「本質が見えてくる 新版 最新現代社会資料集2018」(第一学習社) 「改訂版 高等学校現代社会整理ノート」(数研出版) 「Winning COM. -PASS 倫理・政経／現社の整理と演習 2019」(とうほう)				
授 業 形 態	一斉授業				

年 間 授 業 計 画						
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法
1	4	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 <div>中間考査</div>	3章 現代の経済社会と経済活動のあり方 ①経済のしくみと市場機構 ②財政と金融 ③日本経済の発展と変化 ④豊かな生活と福祉の実現	7	・現代の技術革新の問題点、企業及び市場経済のしくみや国民経済・景気変動について理解し、経済活動を多角的な視野でとらえることができる。 ・資本主義の発展と財政・金融の役割について理解を深め、豊かな社会の実現について考察する。 ・戦後日本の経済成長とプラザ合意・バブル崩壊後の日本が抱える問題点や課題を理解する。 ・消費者問題、雇用と労働問題、社会保障について理解し、個人と企業の経済活動における社会的責任について考える。	観察 発表 課題 ノート 考査
	5					
	6					
	7					
2	8	<div>期末考査</div>	4章 国際社会の動向と日本の役割 ①国際政治の動向 ②国際政治の課題と日本の役割 ③国際経済の動向 ④国際経済の課題と国際協力	8	・国際社会の成り立ちとその発展過程を踏まえ、国際社会の仕組みについて理解させる。 ・戦争や紛争を避け、平和を維持するには国家間から民間レベルに及ぶ相互理解が必要であり、国内的には民主主義的な政治が行われることが必要であることを理解する。 ・冷戦後世界各地で経済の地域統合が進んでいる事実を具体的に理解し、地域統合が行われ、それが進展する原因を考察する。 ・国際経済についての理解を深め、国際的な相互依存関係が緊密化する一方で経済分野の問題が外交上の大きな問題となり、経済摩擦が生じていることを理解する。	観察 発表 課題 ノート 考査
	9					
	10					
	11					
3	12	第3編 ともに生きる社会をめざして <div>期末考査</div> センター演習 <div>学年末考査</div>	①身の回りの課題 センター演習	10	・これまでの学習を通して、身の回りにある諸問題についてどのように解決していくかを考察し、小論文形式にまとめることができる。 ・進路実現に向けて演習問題に取り組む。	観察 発表 課題 ノート 考査
	1					
	2					
備考：			合計	70		

教 科 名		公 民	科目名	現代社会	単位数	2 単位
対 象 学 年		3 年健総	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標		人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
学習内容の概要		(1) 現代に生きる私たちの課題 現代社会に対する関心を高めるとともに、課題を設けて倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から主体的に追求する力を身に付ける。 (2) 現代の社会と人間としての在り方生き方 現代社会について社会的、経済的、政治的及び国際的な視点から理解させるとともに、青年の生き方、経済活動の在り方、民主社会の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方などについて考察する。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
		現代社会の諸問題を取り上げ課題を設けて、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追求しようとする。	現代社会を様々な角度からとらえ、青年、経済人、主権者、国際社会における日本人など様々な立場から人間としての在り方生き方を考えることができる。	現代社会の諸問題に対して調査、分析を通して社会的現象を総合的にとらえようとする。	広い視野に立ち、現代の社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する良識ある公民としての資質を身に付けている。	
評価方法		授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題およびテストにより評価する。	テストおよび課題により評価する。	
教科書、教材など		「改訂版 高等学校現代社会」(数研出版) 「新版 テーマ別資料 クローズアップ現代社会2018」(第一学習社) 「改訂版 高等学校現代社会 整理ノート」(数研出版)				
授 業 形 態		一斉授業				
年 間 授 業 計 画						
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法
1	4	第3章	第1節 経済のしくみと市場機構	8	・科学技術の進展が生活にどう変化を及ぼしたのか。 ・現代の企業の果たしている役割が理解できる。 ・市場経済のメカニズムが理解できる。	観察 発表 課題 ノート 考查
	5	現代の経済社会と 経済活動のあり方 <div>中間考查</div>	第2節 財政と金融	9	・各種経済指標を理解し、動向を読み解くことができる。 ・GDPが大きいことが豊かさにつながるのかどうか、豊かさについて自分なりに判断できる。 ・金融・財政のしくみを理解する。	
	6					
	7		<div>期末考查</div>	第3節 日本経済の発展と変化	9	
2	8					
	9	<div>中間考查</div>	第4節 豊かな生活と福祉の実現	9	・公害がなぜ発生したのか原因を考察できる。 ・失業率や公共事業のあり方を学び、日本経済を探究する。 ・社会保障や雇用・労働問題を理解できる。 ・日本経済について課題を発見し、解決する見通しを持つ。	観察 発表 課題 ノート 考查
10	第4章 国際経済の動向と日本の役割	第1節 国際政治の動向	9	・国際法の意義や国際紛争の解決機関の役割が理解できる。 ・国際連合の組織と役割が理解でき、国連の現状と課題について考察できる。 ・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れを理解する。		
3	11		第2節 国際政治の課題と日本の役割	9	・核軍拡から核軍縮への流れが理解できる。 ・民族紛争・難民問題など国際政治問題に関心を持つ。 ・国際社会で平和主義を掲げる日本の役割が認識でき、国際問題について自分なりの意見を持つ。	観察 発表 課題 ノート 考查
	12	<div>期末考查</div>	第3節 国際経済の動向	9	・戦後の世界経済の流れが理解できる。 ・貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できる。 ・外国為替相場などのレートや市場の動向を理解し、円高などの為替相場の変動が経済に与える影響を考察する。 ・発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの克服のために自らがどのようなことができるか考えることができる。 ・経済統合が進んでいる世界の現状を理解できる。 ・主体的に国際社会の課題を考えようとする自覚を育てることができる。 ・国際社会について自分なりの展望が持てる。	
	1		第4節 国際経済の課題と国際協力	8		
備考：		合計	70			

教 科 名		数 学		科目名	数学Ⅲ	単位数	5単位
対 象 学 年		3 年特進		履修形態	選択	科目コード	
科目の目標		平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。					
学習内容の概要		第1章 複素数平面 第4章 極限 第7章 積分法とその応用		第2章 式と曲線 第5章 微分法		第3章 関数 第6章 微分法の応用	
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。		
評価方法		授業中の取り組みの状態の観察及び予習、復習の状況、課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する		
教科書、教材など		教科書 高等学校数学Ⅲ（数研出版）、問題書 4プロセス数学Ⅲ（数研出版）、参考書 Focus Gold 数学Ⅲ（啓林館）					
授 業 形 態		一斉授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価 方法
1	4	第1章 複素数平面		17	複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5	第2章 式と曲線	第1節 2次曲線	14	平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
	6	1学期中間考査	第2節 媒介変数表示と極座標	11			
		第3章 関数		9	簡単な分数関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について理解する。合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求める。		
7	第4章 極限	第1節 数列の極限	11	数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする			
	1学期期末考査	第2節 関数の極限	12				
2	8	第5章 微分法	第1節 導関数	8	関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求める。合成関数の導関数について理解し、合成関数の導関数を求める。三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を求める。		
	9		第2節 いろいろな関数の導関数	8			
	10	第6章 微分法の応用	第1節 導関数の応用	11	導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいいたりする。また、それらを事象の考察に活用する。		
		2学期中間考査	第2節 いろいろな応用	7			
3	11	第7章 積分法とその応用	第1節 不定積分	8	積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。		
			第2節 定積分	11			
			第3節 積分法の応用	13			
	12	問題演習	10				
備考：	合計		150				

教 科 名		数 学	科目名	数学演習		単位数	5 単位
対 象 学 年		3 年特進（文系）	履修形態	必修	科目コード		
科目の目標		基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。					
学習内容の概要		数学ⅠA・ⅡBの全範囲から、基礎基本を確認しながら大学入試センター試験レベルまでを演習する。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		数学ⅠA・ⅡBの全範囲に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学ⅠA・ⅡBの全範囲における数学的な見方や考え方を身につけている。	数学ⅠA・ⅡBの全範囲において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	数学ⅠA・ⅡBの全範囲における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。		
評価方法		授業中の取り組みの状態の観察及び予習、復習の状況、課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する		
教科書、教材など		問題集 リンク数学演習ⅠA＋ⅡB受験編 a+b+c+d（数研出版） プリント教材					
授 業 形 態		一斉授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価 方法
1	4	数と式 2次関数 集合と命題 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 整数の性質 図形の性質 いろいろな式 図形と方程式 三角関数 指数対数関数 微分積分 数列 ベクトル	問題演習	15	数学ⅠAの範囲の基礎知識を確かめ、各項目において最も典型的な問題から標準レベルの問題の解法を身につける。		考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5			20			
	6			20			
	7			16			
	8			7			
	9			20	数学ⅡBの範囲の基礎知識を確かめ、各項目において最も典型的な問題から標準レベルの問題の解法を身につける。		
	10			20			
	11			20			
	12			15			
	1			10			
	2			12			
	3						
備考：			合計	175			

教 科 名		数 学	科目名	数学演習 S		単位数	3 単位
対 象 学 年		3 年健総	履修形態	必修	科目コード		
科目の目標		問題演習を通して数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養うとともに、応用問題に対応できる力を身につけさせる。					
学習内容の概要		基礎的な内容を確認しながら、就職試験、医療系専門学校に向けた演習を行う。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		基礎的な内容に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、基礎的な内容における数学的な見方や考え方を身につけている。	基礎的な内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	数学Ⅰ、A、Ⅱの基礎的な内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。		
評価方法		授業中の取り組みの状態の観察及び予習、復習の状況、課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する		
教科書、教材など		問題集 新編実用数学セミナー（浜島書店） プリント教材 はぎ取り式練習ドリル数学Ⅰ標準編 はぎ取り式練習ドリル数学A標準編（数研出版）					
授 業 形 態		一斉授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価 方法
1	4	問題演習	数の計算	9	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、幅広い範囲における数学的な見方や考え方を身につけている。		考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5	1学期中間考査	割合	12			
	6		整式の計算	12			
			乗法公式				
	7	1学期期末考査	因数分解	9			
			整式の割り算				
	8		分数式の計算				
			無理数の計算				
	9	2学期中間考査	1次方程式				
			2次方程式				
	10		連立方程式				
			不等式				
11	2学期期末考査	連立不等式					
		2次関数					
12		図形と計量					
		面積・体積					
1	学年末考査	図形総合					
		個数の処理					
2		確率					
		式と証明					
3		直線の方程式					
		円の方程式					
		指数・対数					
備考：			合計	105			

教 科 名		数 学		科目名	数学Ⅱ		単位数	3単位	
対 象 学 年		3年調理		履修形態	必修		科目コード		
科目の目標		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。							
学習内容の概要		第1章 複素数と方程式 第3章 三角関数 第5章 微分法と積分法		第2章 図形と方程式 第4章 指数関数・対数関数					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解	
		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	
評価方法		授業中の取り組みの状態の観察及び予習、復習の状況、課題の提出を主として評価する		テスト及び課題により総合的に評価する		テスト及び課題により総合的に評価する		テスト及び課題により総合的に評価する	
教科書、教材など		教科書 改訂版 新高校の数学Ⅱ（数研出版） 副教材 改訂版 新高校学習ノート 数学Ⅱ（数研出版）							
授 業 形 態		一斉授業							
年 間 授 業 計 画									
学期	月	単 元		学 習 内 容 (活動・実験・実習等)		時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価 方法
1	4	第1章 複素数と方程式		第1節 式の計算		10	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。		① 検査 ② 授業取組 ③ 課題 ※以下同じ
	5	1学期中間検査		第2節 複素数と方程式		17			
	6			第3節 式と証明		2			
2	7	第2章 図形と方程式		第1節 点と直線		13	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。		
		1学期期末検査							
	8			第2節 円		10			
	9								
		第3章 三角関数		三角関数		10			
	10	2学期中間検査							
		第4章 指数関数と対数関数		第1節 指数関数		8			
3	11			第2節 対数関数		5			
				第1節 微分法		10			
	12	2学期期末検査							
	1	学年末検査		第2節 積分法		5			
	2								
	3								
備考：				合計		90			

教 科 名	理科	科目名	物理	単位数	3 単位
対 象 学 年	3 年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
学習内容の概要	・電気と磁気 ・原子				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表 意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題	
教科書、教材など	東京書籍『改訂 物理』（物理308）				
授 業 形 態	一斉授業				

年 間 授 業 計 画

学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法
1	4	・ 3 編 電気と磁気 1 章 電場と電位	電気的な力や空間の性質について、電場と電位という新しい概念で捉え、表現することができる。また、これらの知識を使ってコンデンサーの原理について考察。 電流回路の基本的な性質とその利用法を的確に判断し、目的に応じて適切な電流回路を自分で考案し、表現する。 電流がつくる磁場の基本的な性質を理解し、様々なパターンの電流による磁場の様子を考察し、表現する。また、モーターの仕組みから、電流と磁場との関係を見いだす。 電場と磁場との相互作用に興味・関心を持ち、それらを繋げる法則と実際の機器の仕組みの探究に意欲的に取り組もうとし、今日の人間生活と電磁波との関わりに興味・関心を抱き、それらの基本的な性質と使われ方について意欲的に探究する。	9	・ 電荷が相互に及ぼし合う力や電場（電界）の表し方について理解する。 ・ 摩擦帯電や箔検電器の実験、電場の様子の観察などを通して、電荷が相互に及ぼし合う力、電気量の保存、電界の性質、電気力線について理解する。 ・ 導電性の紙を使って等電位線を調べる実験などを通して、電荷の移動と仕事の関係、電場と電位の関係、及び電位の基準点について理解する。 ・ 電場中の物体の様子やその内外の電場について理解し、箔検電器などの実験を通して、静電誘導、静電遮蔽（シールド）、誘電分極について理解する。 ・ コンデンサーの放電などの実験を通して、充電と放電、電気容量、空気中に置かれた平行板コンデンサーなどの基本的な性質について理解する。また、コンデンサーの接続における合成容量や、電気容量と誘電体との関係について理解する。 ・ 電池の起電力と内部抵抗の測定や、ホイートストンブリッジによる抵抗値の測定などを通して、キルヒホッフの法則、抵抗率の温度変化、電球の電流特性などについて理解する。また、コンデンサーを含む電気回路や、半導体の特性について理解する。 ・ 観察、実験を通して、直線電流のまわり、円形電流の中心、ソレノイドの内部にできる磁場について理解する。 ・ 電流が磁場から受ける力を表す式やローレンツ力について理解する。 ・ コイルを貫く磁束が変化するとき及び導線が磁束を横切るときに生じる誘導起電力、自己誘導、相互誘導、渦電流、交流発電機の仕組みなどについて理解する。 8 交流回路におけるコンデンサーやコイルのリアクタンス、抵抗とコンデンサーとコイルを直列につないだ回路のインピーダンスについて理解する。 ・ ヘルツの実験の再現などの実験を通して、電磁波の基本的な性質、電気振動、電磁波の発生、及び電波の利用について理解する。	活動 実験レポート 板書 発表 宿題 調査 の成績を 総合して 評価
	5	中間考査		9		
	6	2 章 電流		12		
	6	3 章 電流と磁場		6		
	7	期末考査		10		
	8	4 章 電磁誘導と電磁波		10		
	9	中間考査		10		
2	10	4 編 原子	電気的な力や空間の性質について、電場と電位という新しい概念で捉え、表現することができる。また、これらの知識を使ってコンデンサーの原理について考察。 電流回路の基本的な性質とその利用法を的確に判断し、目的に応じて適切な電流回路を自分で考案し、表現する。 電流がつくる磁場の基本的な性質を理解し、様々なパターンの電流による磁場の様子を考察し、表現する。また、モーターの仕組みから、電流と磁場との関係を見いだす。 電場と磁場との相互作用に興味・関心を持ち、それらを繋げる法則と実際の機器の仕組みの探究に意欲的に取り組もうとし、今日の人間生活と電磁波との関わりに興味・関心を抱き、それらの基本的な性質と使われ方について意欲的に探究する。	8	・ 電子の発見に関する歴史的な実験にも触れながら、真空放電などの実験を通して、電子の比電荷、電気素量について理解する。 ・ プランク定数の測定などの実験を通して、光電効果、光量子仮説、電子線回折、物質波について理解する。また、X線の性質や利用について理解する。 ・ α 粒子の散乱実験などの科学史を通して、原子の構造について理解する。また、水素原子のスペクトルの観察などを通して、スペクトルの波長に規則性があることや、ボーアの原子モデルなどを学び、原子が出す光のスペクトルと電子のエネルギー準位の関係について理解する。 ・ 原子核の構成、原子核の崩壊、半減期、核分裂、核融合、原子核反応を扱い、質量とエネルギーの等価性、及び原子力発電のしくみについて理解する。 ・ クォークとレプトンなどの素粒子の存在、及び4つの基本的な力（強い力、電磁気力、弱い力、重力）などについて理解する。 ・ 原子に関する探究活動を行い、学習内容の理解を深めるとともに、物理学的に探究する能力を高める。	
	11	1 章 電子と光		10		
	12	期末考査		7		
	1	2 章 原子と原子核		7		
	2	学年末考査		7		
備考：			合計	105		

教 科 名		理科	科目名	生物	単位数	3 単位	
対 象 学 年		3 年特進	履修形態	選択授業	科目コード		
科 目 の 目 標		生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。					
学習内容の概要		環境の変化に生物が反応していることについて観察、実験などを通して探究し、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。 生物の進化の過程とその仕組みおよび生物の系統について、観察、実験などを通して探究し、進化についての考え方を身に付け、生物の多様性と系統を理解する。 生物の個体群と群集および生態系について観察、実験などを通して探究し、それらの構造や変化の仕組みを理解し、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的・論理的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果および科学的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。		
評価方法		・授業への取り組み 板書、発表、意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題		
教科書、教材など		生物 310 「改訂版 生物」（数研出版） リードα 生物＋生物基礎（数研出版）					
授 業 形 態		選択授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法	
1	4	第5章 動物の反応と行動 1. ニューロンとその興奮 2. 刺激の受容	生物基礎で学習した神経系の復習と応用 神経細胞と感覚細胞の連携 観察&実験 盲斑の検出 刺激と反応の仕組みを実験・観察 いろいろな行動を視聴覚教材にて学習	14	まず、ニューロン（神経細胞）の基本的な構造とそのはたらきを理解する。 次に、受容器で受け取られた刺激（情報）が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。 その際、刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に取り上げ、効果器に関しては筋肉を中心に取り上げる。 動物の行動については、神経系における情報の流れと関連づけながら扱う。	評価テスト ノート	
	5						
	6	3. 情報の統合 4. 刺激への反応		14			
	7						
	8	5. 動物の行動					
2	9	第6章 植物の環境応答 1. 植物の生活と環境応答 2. 発芽の調節 3. 成長の調節	観察&実験 種子の発芽と胚のはたらき	10	植物は成長を調節するなどして環境にตอบสนองしていることを理解する。 そのうえで、環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。		
	10	4. 環境の変化に対する応答 5. 花芽形成・結実の調節		14			
	11	第7章 生物群集と生態系 1. 個体群 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異種個体群間の関係		25			個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。その際、生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。 次に、生態系における物質生産について学習する。その際、いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について学習する。
	12	4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物多様性					
3	1	第8章 生命の起源と進化 1. 生命の起源と初期の生物の変遷 2. 多細胞生物の変遷 3. 進化のしくみ	生命誕生の歴史から始まり現在の地球生命についての最新情報を調査する	20	生命の起源および生物の変遷を学習する。その際、生命の誕生や生物の変遷は、地球環境の変化と密接に関係していることを理解する。生物の進化については、そのしくみを学習する。そのうえで、分子進化の概念や種分化のしくみについても学習する。		
	2						
		第9章 生物の系統 1. 生物の系統 2. 生物の多様性		8			生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解する。その際、形態的な特徴などにもとづいた分類ばかりでなく、近年では、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについて扱う。個々の分類群については、その概要を学習する。
備考：				合計	105		

教 科 名		理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対 象 学 年		3 年健総・調理	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標		生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要		日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
		自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		・授業への取り組み 板書、発表 意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題	
教科書、教材など		啓林館 生物基礎 改訂版（生基315） 「サンダイヤル生物基礎の基本マスター」 啓林館				
授 業 形 態		一斉授業				
年 間 授 業 計 画						
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法
1	4	序章 探究活動の進め方	探究活動の方法について学ぶ。	15	生物としての共通の特徴をあげることができ、多様な生物群が単一の共通先祖に由来すると考えることができる。	活動 実験レポート 板書 発表 宿題 考査 の成績を 総合して 評価
	5	第 1 部 生物の特徴 第 1 章 生物の多様性と共通性 第 2 章 細胞とエネルギー	生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。		生物群の系統樹上での類縁関係がわかる。	
		中間考査				
	6	第 2 部 遺伝子とその働き 第 1 章 遺伝情報と DNA 第 2 章 遺伝情報の複製と分配 第 3 章 遺伝情報とタンパク質の合成	遺伝情報をに成る物質としての DNA の特徴について理解する。	13	遺伝子が親から子へと伝えられる因子であること、DNA の特徴について調べようとする。	
	7	期末考査	体内環境の恒常性が保たれているしくみを理解する。		DNA が複製されることにより、遺伝情報が伝えられることを調べようとする。 体細胞分裂と細胞周期が染色体の変化によって観察できることに関心を持つ。	
	8	第 3 部 生物の体内環境の維持 第 1 章 体内環境と恒常性	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	13	体内環境の恒常性に関心を持ち、体液の成分、体液のはたらき、循環に興味を持つ。	
	9	第 2 章 体内環境の維持の仕組み				
	10	中間考査				
	11	第 3 章 免疫	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。	17	免疫とそれにかかわる細胞の働きについて調べようとする。 細菌などを食作用で除く生体防御反応である。	
	12	期末考査				
	1	第 4 部 生物の多様性と生態系 第 1 章 多様な植生と遷移 第 2 章 気候とバイオーム 第 3 章 生態系とその保全	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを学び、生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を認識する。	12	世界のバイオームや日本のバイオームの特色に関心を持つ。生態系を構成する要素の関係についてどのような観点で把握することができるか関心を持っている。 食物連鎖の過程を通して物質やエネルギーが移動することについて関心を持っている。 生態系に与える人間生活の影響やグローバルな地球環境問題などについて関心を持っている。	
	2	学年末考査				
		3	探究活動 4.			
備考	合計			70		評価テスト ノート

教 科 名		理科	科目名	化学	単位数	4 単位
対 象 学 年		第 3 学年	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標		化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
学習内容の概要		・物質の状態・物質の変化・無機物質・有機物質・天然有機化合物・合成有機化合物				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		・授業への取り組み 板書、発表、意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題	
教科書、教材など		「化学」数研出版 大学入試センター対策 チェック＆演習 化学（数研出版）				
授 業 形 態		一斉授業				
年 間 授 業 計 画						
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法
1	4	・粒子の結合と結晶の構造	・原子とイオン ・イオン結合とイオン結晶 ・分子と共有結合・共有結合の結晶 ・金属結合と金属・粒子の熱運動	15	・イオン式が書ける。 ・イオン結合の組成式が書ける。結晶構造が理解できる。 ・構造式、電子式が書け、共有結合の結晶の構造が理解できる。 ・金属結合の結晶格子の構造と、性質が理解できる。	活動 実 験 レ ポ ー ト 板書 発表 宿題 考 査 の 成 績 を 総 合 し て 評 価
	5	・物質の三態と状態変化	・分子間力と三態の変化 ・状態変化とエネルギー ・物質の種類と物理的性質	15	・分子間力と三態の変化の説明ができる。 ・状態変化とエネルギーの性質が理解できる。 ・物質の種類と物理的性質が理解できる。	
		・気体	・気体の体積・気体の状態方程式 ・混合気体の圧力・実在気体		・気体の体積・気体の状態方程式を使って計算ができる。 ・混合気体の圧力・実在気体の説明ができる。	
	6	・溶液	・溶解とそのしくみ ・溶解度・希薄溶液の性質 ・コロイド溶液	15	・溶解とそのしくみが理解できる。 ・溶解度・希薄溶液の性質が理解できる。 ・コロイド溶液に関する現象が理解できる。	
		・化学反応とエネルギー	・化学反応と熱・化学反応と光 ・電池・電気分解		・化学反応と熱・化学反応と光の関係が理解できる。 ・電池・電気分解が理解できる。	
	2	・電池と電気分解 ・化学反応の速さ としくみ ・化学平衡	・化学反応の速さ・反応条件と反応速度 ・化学反応のしくみ ・可逆反応と化学平衡 ・平衡状態の変化	15	・化学反応の速さ・反応条件と反応速度の関係が理解できる。 ・化学反応のしくみが理解できる。 ・可逆反応と化学平衡が理解できる ・平衡状態の変化が理解できる	
		・非金属元素	・電解質水溶液の化学平衡 ・元素の分類と周期表 ・水素・希ガス元素・ハロゲン元素 ・酸素・硫黄・窒素・リン		10	
・金属元素（Ⅰ）		・炭素・ケイ素 ・アルカリ金属元素・2族元素	・アルカリ金属元素・2族元素の性質が理解できる。			
3	・金属元素（Ⅱ）	・アルミニウム・亜鉛・スズ・鉛 ・遷移元素の特色・鉄・銅・銀・金	15	・アルミニウム・亜鉛・スズ・鉛の性質が理解できる。 ・遷移元素の特色・鉄・銅・銀・金の性質が理解できる。		
	・有機化合物の分類 と分析 ・脂肪酸炭化水素	・クロム・マンガン・金属イオンの分離 ・有機化合物の特徴と分類、分析 ・飽和炭化水素		15	・クロム・マンガン・金属イオンの分離が理解できる。 ・有機化合物の特徴と分類が説明できる。 ・有機化合物の分析、元素分析ができる。 ・飽和炭化水素の性質が理解できる。	
	・アルコールと関連 化合物	・不飽和炭化水素 ・アルコールとエーテル			・不飽和炭化水素の性質が理解できる。 ・アルコールとエーテルの性質が理解できる。	
10	・芳香族化合物	・アルデヒドとケトン ・脂肪酸カルボン酸と酸無水物 ・芳香族炭化水素・フェノール類 ・芳香族カルボン酸 ・芳香族アミンとアゾ化合物	・アルデヒドとケトンの性質が理解できる。 ・脂肪酸カルボン酸と酸無水物の性質が理解できる。 ・芳香族炭化水素・フェノール類の性質が理解できる。 ・芳香族カルボン酸の性質が理解できる。 ・芳香族アミンとアゾ化合物の性質が理解できる。			
3	11	・天然有機化合物	・有機化合物の分離 ・天然有機化合物の種類	15	・有機化合物の分離が説明できる。 ・天然有機化合物の種類が説明できる。	
	・天然高分子化合物	・単糖類・二糖類・アミノ酸 ・多糖類・タンパク質・核酸	・単糖類・二糖類・アミノ酸の性質が理解できる。 ・多糖類・タンパク質・核酸の性質が理解できる。			
	12	・高分子化合物の性質	・高分子化合物の構造と性質 ・合成繊維・合成樹脂		・高分子化合物の構造と性質が理解できる。 ・合成繊維・合成樹脂の性質が理解できる。	
3	1	・合成高分子化合物	・高分子化合物と人間生活 ・天然ゴムと合成ゴム	15	・高分子化合物と人間生活が説明できる。 ・天然ゴムと合成ゴムの性質が理解できる。	
		合計	140			

教 科 名		理 科	科目名	地学基礎		単位数	2単位
対 象 学 年		3 年特進	履修形態	選択授業	科目コード		
科 目 の 目 標		1. 日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。 2. 地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てる。					
学習内容の概要		地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、地学的な見方や考え方を養う。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。		
評価方法		・授業への取り組み 板書、発表、意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題		
教科書、教材など		東京書籍「改訂 地学基礎」(地基306)					
授 業 形 態		選択授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法	
1		1 編 私たちの宇宙の進化 1 章 宇宙の構造と進化 2 章 太陽と惑星	視聴覚教材による学習 簡易分光器を用いた身近なスペクトルの観察 観測衛星画像の閲覧	8	宇宙空間に漂うガスの雲から恒星が誕生する過程。太陽は核融合反応でエネルギーを生成している核融合反応の変化とともに、将来、赤色巨星になり、最後に白色矮星と惑星状星雲になると考えられること。 宇宙空間では、銀河の密度が高い領域が結ばれていき立体的な網目状の構造をつくっていること。 地層が形成される仕組みや場所。堆積岩の分類。変成岩の特徴。 示準化石による年代決定、示相化石による環境推定 大陸配置の変化に伴う草原の出現と哺乳類の進化。人類の進化を系統立てて理解。		
		2 編 私たちの地球の変遷と生物の進化 1 章 地層や岩石の観察 2 章 生命の変遷	岩石標本を利用して実物を観察する	14			
2		3 編 私たちの大地 1 章 大地とその動き 2 章 地震	バイオームに関する概念と環境との関連について他教科との連携を図る	14	地球の内部は地殻、マントル、外核、内核に分かれた層構造をしていること。 マントル内部の対流とプルームの動きについて理解する。 地震による揺れのもと断層運動により生じた波であること。 地震波のエネルギーはマグニチュードが1大きくなると約32倍、2大きくなると1000倍になること。		
		3 章 火山	地球の内部についての最新情報を調査する	16	火山はプレートの運動と関連していて、プレート境界に多く分布していること、SiO2含有量・マグマの粘性が火山の噴火様式・形などどのように関連があるか理解する。		
3		4 編 私たちの空と海・地球のこれから 1 章 大気と海洋		10	大気の大気構造について、密度変化と温度変化に着目し、それぞれの層の特徴を、その特徴の発現する理由とともに理解する。 太陽放射と地球放射との緯度による差が大気の循環の原因であること。 海水の大気構造が、温度の鉛直分布によって分けられていること。 大気と海洋の相互作用、またその変動性の例としてエルニーニョ現象。 地震による災害を日本の自然環境の特徴と関連づけて理解する。		
		2 章 日本の自然の恵みと防災	動物・植物それぞれの進化について観察記録等を閲覧する 地球温暖化を考える	8	日本の四季の天気の特徴と気象災害を地域性を意識しつつ理解する。 持続可能性の視点をふまえ、これまで地学基礎で学んできた考え方をを用いて、自分たちにできることはどのようなことがあるのか、考え、発表することができるようになる。		
		合計		70			

教 科 名		保健体育		科目名	男子（特進）		単位数	2 単位	
対 象 学 年		第 3 学年		履修形態	必修	科目コード			
科 目 の 目 標		運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状態に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。							
学習内容の概要		1 学期…体力測定、体づくり運動、ソフトボールを行う。 2 学期…フットサル、バレーボール、バドミントンを行う。 3 学期…バスケットボールを行う。 体育理論…各学期に行う。							
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、互いに協力する態度とともに安全に留意して学習に取り組もうとする。	思考・判断 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。	技能・表現 運動の特性に応じた技術を身に付けるとともに、その技能を高めて運動することができる。	知識・理解 運動の特性や学び方、技術の構造を理解するとともに、運動の仕方や理論について知識・理解している。				
評価方法		授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組みにて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。				
教科書、教材など		なし							
授 業 形 態		合同							
年 間 授 業 計 画									
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)				評価 方法
1	4	体育理論	体育理論	2	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を復習する。				
	5	体力測定	基礎体力の測定	5	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。				
		体づくり運動	挨拶・姿勢・整頓・行進	2	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、挨拶、姿勢、整頓、行進などを行う。スムーズに、かつ安全に行動できるようにする。				
	6		体操・補強運動	2	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたり、自重を使ったりして全身をリラックスして伸ばす。				
	7		体ほぐし運動	2					
		球技	ソフトボール	15	・キャッチボール、ゴロ、フライ捕球、送球の復習をする。 ・状況に応じた守備位置に立ち、ゲームを展開する。				
		期末考査							
	8								
	9	球技	サッカー (フットサル)	8	・パス、ドリブル、キックの復習をする。 ・3つの基礎を使い、安定したボール操作と空間を作りだすなどの連携した動きによって攻防を展開する。				
	10								
	11	球技	バレーボール	15					
	12	期末考査			・パス（アンダーハンドパス・オーバーハンドパス）、サーブ、アタックの技術を復習し、三段攻撃やクイックなどの攻撃展開ができる。 ・空間を作り出すなどの攻防を展開する。				
3			バドミントン	10					
	1	球技	バスケットボール	9	・サービス、各種のストロークの復習を行い、ゲーム展開につなげる。 ・空間を作り出す動きや、味方が作り出した空間へのパスなどを使ってゲーム展開ができる。				
		学年末考査							
備考：			合計	70					

教 科 名		保健体育		科目名	男子（健総・調理）	単位数	3 単位
対 象 学 年		第 3 学年		履修形態	必修	科目コード	
科目の目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状態に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。					
学習内容の概要		1 学期…体力測定、体づくり運動、ソフトボールを行う。 2 学期…フットサル、バレーボール、バドミントンを行う。 3 学期…バスケットボールを行う。 体育理論…各学期に行う。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、互いに協力する態度とともに安全に留意して学習に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の特性に応じた技術身に付けるとともに、その技能を高めて運動することができる。	運動の特性や学び方、技術の構造を理解するとともに、運動の仕方や理論について知識・理解している。		
評価方法		授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組みにて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。		
教科書、教材など		なし					
授 業 形 態		合同					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法	
1	4	体育理論	体育理論	4	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を復習する。		
	5	体力測定	基礎体力の測定	5	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。		
		体づくり運動	挨拶・姿勢・整頓・行進	3	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、挨拶、姿勢、整頓、行進などを行う。スムーズに、かつ安全に行動できるようにする。		
	6		体操・補強運動 体ほぐし運動	3 4	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたり、自重を使ったりして全身をリラックスして伸ばす。		
	7	球技	ソフトボール	15	・キャッチボール、ゴロ、フライ捕球、送球の復習をする。 ・状況に応じた守備位置に立ち、ゲームを展開する。		
		期末考査					
	2	8					
9		球技	サッカー (フットサル)	14	・パス、ドリブル、キックの復習をする。 ・3つの基礎を使い、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって攻防を展開する。		
10		球技	バレーボール	21	・パス（アンダーハンドパス・オーバーハンドパス）、サーブ、アタックの技術を復習し、三段攻撃やクイックなどの攻撃展開ができる。 ・空間を作り出すなどの攻防を展開する。		
11		期末考査					
3	12		バドミントン	18	・サービス、各種のストロークの復習を行い、ゲーム展開につなげる。		
	1	球技	バスケットボール	18	・空間を作り出す動きや、味方が作り出した空間へのパスなどを使ってゲーム展開ができる。		
		学年末考査					
備考：			合計	105			

教 科 名		保健体育		科目名	女子（特進）	単位数	2 単位	
対 象 学 年		第 3 学年		履修形態	必修	科目コード		
科目の目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状態に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。						
学習内容の概要		1 学期…体力測定、体づくり運動、バレーボールを行う。 2 学期…ソフトボール、バドミントン、フットサルを行う。 3 学期…バスケットボールを行う。 体育理論…各学期に行う。						
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、互いに協力する態度とともに安全に留意して学習に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の特性に応じた技術に身に付けるとともに、その技能を高めて運動することができる。	運動の特性や学び方、技術の構造を理解するとともに、運動の仕方や理論について知識・理解している。			
評価方法		授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組みにて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。			
教科書、教材など		なし						
授 業 形 態		2クラス合同						
年 間 授 業 計 画								
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)			評価 方法
1	4	体育理論	体育理論	3	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を復習する。			
	5	体力測定	基礎体力の測定	4	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。			
		体づくり運動	挨拶・姿勢・整頓・行進	2	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、挨拶、姿勢、整頓、行進などを行う。スムーズに、かつ安全に行動できるようにする。			
	6	球技	体操・補強運動	2	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたり、自重を使ったりして全身をリラックスして伸ばす。			
			体ほぐし運動	2				
	7	球技	バレーボール	12	・パス（アンダーハンドパス・オーバーハンドパス）、サーブ、アタックの技術を復習し、三段攻撃やクイックなどの攻撃展開ができる。 ・空間を作り出すなどの攻防を展開する。			
		期末考査						
2	8	球技	バドミントン	12	・サービス、各種のストロークの復習を行い、ゲーム展開につなげる。			
	9	球技	ソフトボール	12	・キャッチボール、ゴロ、フライ捕球、送球の復習をする。 ・状況に応じた守備位置に立ち、ゲームを展開する。			
	10	球技	サッカー (フットサル)	11	・パス、ドリブル、キックの復習をする。 ・3つの基礎を使い、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって攻防を展開する。			
	11							
	12	期末考査						
3	1	球技	バスケットボール	10	・空間を作り出す動きや、味方が作り出した空間へのパスなどを使ってゲームを展開できる。			
		学年末考査						
備考：			合計	70				

教 科 名		保健体育		科目名	女子（健総・調理）	単位数	3 単位	
対 象 学 年		第 3 学年		履修形態	必修	科目コード		
科目の目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状態に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。						
学習内容の概要		1 学期…体力測定、体づくり運動、バレーボールを行う。 2 学期…バドミントン、ソフトボール、フットサルを行う。 3 学期…バスケットボールを行う。 体育理論…各学期に行う。						
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、互いに協力する態度とともに安全に留意して学習に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の特性に応じた技術に身に付けるとともに、その技能を高めて運動することができる。	運動の特性や学び方、技術の構造を理解するとともに、運動の仕方や理論について知識・理解している。			
評価方法		授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組みにて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。			
教科書、教材など		なし						
授 業 形 態		合同						
年 間 授 業 計 画								
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)			評価方法
1	4	体育理論	体育理論	5	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を復習する。			
	5	体力測定	基礎体力の測定	7	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。			
		体づくり運動	挨拶・姿勢・整頓・行進	5	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、挨拶、姿勢、整頓、行進などを行う。スムーズに、かつ安全に行動できるようにする。			
	6		体操・補強運動 体ほぐし運動	5 5	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたり、自重を使ったりして全身をリラックスして伸ばす。			
	7	球技	バレーボール	17	・パス（アンダーハンドパス・オーバーハンドパス）、サーブ、アタックの技術を復習し、三段攻撃やクイックなどの攻撃展開ができる。 ・空間を作り出すなどの攻防を展開する。			
		期末考査						
2	8	球技	バドミントン	17	・サービス、各種のストロークの復習を行い、ゲーム展開につなげる。			
	9							
	10	球技	ソフトボール	17	・キャッチボール、ゴロ、フライ捕球、送球の復習をする。 ・状況に応じた守備位置に立ち、ゲームを展開する。			
	11		サッカー (フットサル)	14	・パス、ドリブル、キックの復習をする。 ・3つの基礎を使い、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって攻防を展開する。			
	12	期末考査						
3	1	球技	バスケットボール	13	・空間を作り出す動きや、味方が作り出した空間へのパスなどを使ってゲームを展開できる。			
		学年末考査						
備考：			合計	105				

教 科 名		保健体育		科目名	専攻実技		単位数	3 単位	
対 象 学 年		第 3 学年		履修形態	選択必須		科目コード		
科目の目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、専門的な知識・理解を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。							
学習内容の概要		1 学期…トレーニング実技、ソフトボール、ゴルフを行う。 2 学期…ゴルフ、バスケットボールを行う。 3 学期…卓球を行う。 各学期でスポーツ理論を行う。							
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解				
		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習を主体的に取り組もうとする。	豊かなスポーツライフの現実を目指して、自己や仲間との課題解決に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝つ方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。					
評価方法		授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、授業内テストにて判断する。	授業中の取り組み、授業内テストにて判断する。	授業中の取り組み、授業内テストにて判断する。				
教科書、教材など		なし							
授 業 形 態		2 クラスでの合同授業（男女）							
年 間 授 業 計 画									
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)				評価方法
1 <									

教 科 名		選択科目	科目名	健康科学		単位数	1 単位		
対 象 学 年		第3学年	履修形態	選択必修	科目コード				
科目の目標		スポーツ(競技)を様々な分野・方向から学び、各自の競技に繋げていけるよう学習をする。また、学習したことを将来的にも結び付け、生涯スポーツとして今後に関わっていくようにする。							
学習内容の概要		1 学期…解剖学・運動生理学といった生物学・科学的な分野から体の構造知り、競技につなげる。 2 学期…スポーツの歴史や文化を学ぶ。 3 学期…2 学期学習した部分をつなげ独自のスポーツを作り、発表する。							
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度 スポーツ(競技)において生物学・科学的な分野から学び、競技に繋げようとすることや、スポーツのさまざまな歴史や文化に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	思考・判断 自己の競技と能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、競技力向上に向け計画的な練習やトレーニングの仕方を考え、工夫している。また、スポーツの歴史や文化が発祥から現代に至るまでを学び理解している。	技能・表現		知識・理解 アスリートとしてのトレーニングの意義や必要性及び身体の特徴と合理的な使い方を理解し、知識を身に付ける。また、スポーツにおける歴史や文化から生涯スポーツに役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。			
評価方法		授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。			授業中の取り組み、試験にて判断する。			
教科書、教材など		パワーポイント・プリント							
授 業 形 態									
年 間 授 業 計 画									
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価 方法		
1	4	オリエンテーション	授業内容説明	1	・ 1 年間の授業の流れを知る。 ・ 評価方法を知る。		授業態度・提出物・期末考査を総合して評価する。		
	5	特別実習	筋肉の構造 筋肉の種類・性質 ウォーミングアップ 身体ケアについて	10	・ 人体の骨、骨格、筋肉の場所、名称を知る。 ・ スポーツ(競技)を行なう時にどのような働きをするかを理解する。 ・ 筋肉の構造や種類、性質を知る。 ・ 筋肉の構造や性質を理解したうえで、競技にどのような働きをするか、またケアの方法やトレーニング方法などを知る。				
	6	期末考査							
	7								
2	8							授業態度・提出物・期末考査を総合して評価する。	
	9	スポーツ文化論	スポーツの発祥 古代スポーツから現代スポーツの発展と違い オリンピックについて	10	・ スポーツの発祥の地やスポーツ発祥の歴史から古代スポーツと現代スポーツの違いを知り、歴史的背景を学ぶ。 ・ オリンピックの歴史や運営方法、経済効果などオリンピックの発祥から現在までにどのような効果があるかを学ぶ。				
3	10								授業態度・提出物・期末考査を総合して評価する。
	1	ニュースポーツ論	グループに分かれて独自のスポーツを作る	11	・ グループに分かれグループ独自のニュースポーツを作り、発表し実際に行なう。				
	1	期末考査							
	1	学年末考査							
	2						授業態度・提出物・期末考査を総合して評価する。		
	1								
備考：			合計	32					

教 科 名		芸術	科目名	音楽表現	単位数	2 単位
対 象 学 年		第 2 学年	履修形態	選択必修	科目コード	
科目の目標		音楽の活動を通して、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。				
学習内容の概要		A. 表現 1 歌唱 2 器楽 3 創作 B. 鑑賞 1 鑑賞				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力	
		音楽を愛好し、音楽文に 関心を持ち、個性豊かに意欲 的、主体的に音楽活動を行 い、その喜びを味わおうと している。	感性を働かせて、音楽の諸 要素を知覚し、音楽のよさ や美しさを感じ取り、個性 豊かに創造的な音楽活動の 工夫をする。	自己のイメージをもち、個 性豊かに創造的な表現をす るための技能を身につけて いる。	音楽文化に対する理解を深 め、そのよさや美しさを主 体的に味わう。	
評価方法		観察・聴取 学習プリント	観察・聴取 実技試験	観察・聴取 実技試験 学習プリント	課題プリント 学習プリント	
教科書、教材など		MOUSA 1（教育芸術社）MOUSA 2（教育芸術社）Music Navigaition（教育出版） ベイシック オブ ミュージック 他				
授 業 形 態		一斉授業				
年 間 授 業 計 画						
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法
1	4 5	ヴォイス・トレーニング から始めよう	・発声練習 ・コンコーネ ・Ave Maria ・ふるさと ・ありがとう	6 8	・楽曲にふさわしい発声をイメージをもって表現しよう。 ・リズムやブレスに注意しながら表現を工夫しよう。 ・楽譜に書かれている楽語や発想用語を表現する技能を身につけている。 ・それぞれの曲の特徴を感じ取りながら聴いている。	観察 聴取 実技試験 学習 プリント 課題 プリント
	6 7	創作 ソルフェージュ 楽典	・DOTコンポジション ・メロディーを作ろう ・アレンジをしよう	12	・意欲的に創作活動に取り組んでみよう。 ・曲の構成を理解し、アレンジの違いによる変化を感じ取ろう。 ・創作した楽曲をイメージをもって表現しよう。	
	8 9 10 11 12	大作曲家の生涯と研究 日本の伝統音楽 世界の諸民族の音楽 ソルフェージュ聴音	・リズム聴音 ・メロディー聴音 ・新曲視唱	12 12	・作曲家の生きた時代や社会背景に興味・関心をもって聴いている。 ・それぞれの曲が成立した時代や社会的状況を理解して聴いている。 ・我が国の伝統音楽や諸民族の音楽などを聴き、そのよさや美しさを味わう。	
2	1 2 3	総合芸術の魅力を感じよう		10 10	・オペラやミュージカルに興味を持ち、主体的に活動しようとしている。 ・曲種に応じた発声を工夫している。 ・曲種に応じた美しさを表現するための技能を身につけよう。 ・劇音楽の様式や特徴を理解し、その良さを味わう。 ・各パートが協力し合って表現する喜びを味わおう。 ・各パートの響き合いを感じながら表現を工夫している。 ・それぞれの曲に応じた表情や雰囲気表現する技能を身につけよう。	
		合唱やアンサンブルを楽しもう				
備考：			合計	70		

教 科 名		芸 術		科目名	美術 2		単位数	2 単位	
対 象 学 年		3 年総合選択		履修形態	選択必修	科目コード			
科目の目標		生徒の個性を活かした創造的な活動を行い、生涯にわたり美術を愛好する心情を育て、表現と鑑賞の能力を伸ばす。美術文化についての理解を深め尊重する態度を養う。							
学習内容の概要		(A) 表現 (1) 絵画・彫刻 (2) デザイン (3) 映像メディア表現 (B) 鑑賞							
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能		鑑賞の能力			
		鑑賞を通して美術文化に関心を持ち、主体的に多様な表現方法を研究し、自分の作品作りに取り入れようと努力する。	目的に向かって個性的な発想や構想を重視し、美しさや機能性を追及している。	技能を磨き、表現したいイメージを具現化させるよう努力する。		日本の伝統文化などを通して作品の持つ美しさや精神性を理解しようとする。			
評価方法		授業中の取り組む姿勢。ワークシート。提出作品。	授業中の取り組む姿勢。ワークシート。提出作品。	授業中の取り組む姿勢。ワークシート。提出作品。	授業中の取り組む姿勢。ワークシート。				
教科書、教材など		高校美術 1 (高村出版)							
授 業 形 態		一斉授業 選択授業							
年 間 授 業 計 画									
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)				評価 方法
1	4	オリエンテーション	あなたにとっての美術とは	2	これまでの美術との関わりをふりかえり、これからの学習内容や取り組み方を理解する。				観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察
		A 表現 絵画 (デッサン)	作品制作 相互鑑賞	3	石こう、静物デッサンを通して対象物の捉え方を学ぶ。				
	5	A 表現 彫刻	作品制作 相互鑑賞	3	自画像を彫り道具の使い方を習得。造形の楽しさを知る。				
		A 表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	4	透視図法から、遠近法を理解する。				
	6			3	ポスター制作によって。目的のための構成を学ぶ。				
				4	箱の制作で、構造を工夫したり、美しさを考える。				
		A 表現 デザイン 映像	作品制作 相互鑑賞	6 2	パラパラマンガ モザイク モザイク				
2		A 表現 デザイン	作品制作	4	CDジャケット				観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察
	7	A 表現 絵画	作品制作 相互鑑賞	3	見えないものを描く。感覚を表現する方法を学ぶ。				
	8				童話など、物語を絵で表現する。				
			作品制作 相互鑑賞	6	個性を伸ばし、独自の表現で作品を作る。				
	9	A 表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	6	開発商品を考え、企画書、サンプル、広告などを制作。				
	10	A 表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	6	日本の伝統文化を知り、現代との比較やアレンジする。				
	11	A 表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	4	粘土で和菓子を作る。				
3	12	A 表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	4	和菓子のパッケージ				観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察 作品 観察
	1	A 表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	6	未来予想図				
	2	B 表現 鑑賞	作品制作 相互鑑賞	4	鑑賞能力を高め、関心のある作品を発表する。				
	3								
備考：			合計	7 0					

教 科 名		外国語科		科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4	
対 象 学 年		3年特進		履修形態	必修	科目コード		
科目の目標		1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。						
学習内容の概要		1. 事実に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 2. 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験に基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。						
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断		技能・表現		知識・理解	
		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。		外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話し、書いたりして表現する。		外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。	
評価方法		A B C 授業態度・参加度・発表回数	A B C 発表内容・聞き取り		A B C 小テスト・宿題		(中間考査+期末考査)の 考査平均点×0.8 ユメタンテスト	
教科書、教材など		Genius English Communication III (大修館書店)・英語総合問題演習エボリューション ユメタン1 (アルク)・プリント						
授 業 形 態		一斉						
年 間 授 業 計 画								
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)			評価 方法
1	4	1, 2年英語の総復習	ユメタン音読、単語練習 ・本文内容理解 ・ワーク ・本文要約 ・文法事項の確認、練習 ・本文音読 ・小テスト (文法・単語) ・意見発表 ・リスニング ・ユメタンテスト (各ユニット毎)	1 5	時制・不定詞・動名詞・分詞・関係代名詞・文型などの総復習			中間考査
	5	L1 Step into a New World		5	・海外ボランティアに興味をもち、青年海外協力隊に参加した若者の体験に関する本文の要点をまとめることができる。			
	6	L2 Finding Flow		1 5	・学習が最も進む条件であるフローに関する心理学の理論に興味を持ち、フローに関する説明文の要点を伝えることができる。			
2	7	L3 The Island in the Wind	・本文要約 ・文法事項の確認、練習 ・本文音読 ・小テスト (文法・単語) ・意見発表 ・リスニング ・ユメタンテスト (各ユニット毎)	1 5	・環境及びエネルギー問題に関心を持ち、ひと津の成功例である、サムソ島に関する話の要点をつたることができる。			期末考査
	8			1 5	・日本の伝統的な染色技術に関心を持ち、染色家吉岡幸雄に関する話の要点を伝えることができる。			
3	9	L4 Quest for Traditional Colors	ユメタンテスト (各ユニット毎)	1 5	・職業倫理や規則の在り方に関心を持ち、社会生活において求められる実践的な知について概要を伝えることができる。			中間考査
	10	L5 Practical Wisdom		1 5	・異文化コミュニケーションに関心を持ち、言語と差別および異文化に関する話の要点を伝えることができる。			
	11	L6 Cross-cultural Communication		1 5	・iPS細胞を中心として再生医療に関する話に興味を持ち、要点を伝えることができる。			
	12	L7 What are Stem Cells		1 5	・パラリンピックに関する話に関心を持ち、話の要点を伝えることができる。			
	1	L8 Paralympic Games		1 5				
備考：			合計	140				

教 科 名		外国語科	科目名	英語表現II		単位数	3 単位
対 象 学 年		3 年特進	履修形態	必修	科目コード		
科目の目標		1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。					
学習内容の概要		1. 与えられた条件に合わせ、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。 2. 主題を決め、様々な種類の文章を書く。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験に基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、それを聞いて質問したり、意見を述べたりする。 4. 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。	外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして表現する。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。		
評価方法		10・8・6・4・2 授業態度・参加度・発表回数	5・3・1 発表内容・聞き取り	5・3・1 小テスト・宿題	(中間調査+期末考査)の 考査平均点×0,8		
教科書、教材など		NEW FAVORITE English Expression II (英 II 301) (東京書籍) Next Stage (桐原書店)、 英語語法英文法問題集					
授 業 形 態		一斉					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法	
1	4	Lesson1 School Uniforms	リスニング・練習問題・ディベート	7	・学校生活における制服に賛成 [反対] する理由を挙げることができる。・注意すべき自動詞と他動詞・時制	授業態度・参加度・発表物・小テスト・定期考査の成績を総合して評価	
	5	Lesson 2 Online Addiction 中間考査	リスニング・練習問題・スピーチ	10	・オンラインゲームの問題点について、話し合うことができる。 ・助動詞を使った表現 ・提案や命令などを表す表現		
	6	Lesson 3 Companion Animals 期末考査	リスニング・練習問題・ディベート	10	・調査結果をもとに、ペットを飼うことについて話し合うことができる。・注意すべき受け身		
	7	Lesson 4 Why Homework?	リスニング・練習問題・スピーチ・小テスト	9	・宿題の良い点 [悪い点] について、ある意見に賛成 [反対] しながら即興で言うことができる。・注意すべき不定詞 ・注意すべき動名詞・注意すべき分詞		
	8	Lesson 5 My Future Career	リスニング・練習問題・スピーチ・小テスト	8	・将来つきたい職業とその理由を発表することができる。 ・原級比較を用いた表現 ・比較級を用いた表現		
	9	Lesson 6 Volunteer Work 中間考査	リスニング・練習問題・スピーチ・小テスト	10	・身の回りにある環境問題について、問題点と解決策を熱心に話し合うことができる。・関係代名詞を用いた表現 ・関係副詞を用いた表現		
	10	センター試験英語単元別問題集・プリント	センター試験対策 リスニング	10	・発音・アクセント・発話の強調の意図		
	11	期末考査	第1問 第2問 第3問	10	・文法・語法問題 ・語句整序 ・応答文完成問題		
	12	センター試験過去問題		8	・文意把握読解問題		
	1	学年末考査		8			
備考：			合計	90			

教 科 名		外国語科		科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	3
対 象 学 年		3年健総・調理		履修形態	必修	科目コード	
科目の目標		1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。					
学習内容の概要		1. 事実に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 2. 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。 また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験に基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。	外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話し、書いたりして表現する。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。		
評価方法		A B C 授業態度・参加度・発表回数	A B C 発表内容・聞き取り	A B C 小テスト・宿題	(中間調査+期末考査)の 考査平均点×0.7		
教科書、教材など		VISTA English Communication II (三省堂) VISTA English Communication II workbook (三省堂) ユメタン0 (アルク) プリント					
授 業 形 態		一斉					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法	
2	4	英検過去問集	リスニング	7	英検過去問 英検過去問	授業態度・参加度・提出物・小テスト・定期考査の成績を総合して評価	
	5		1部、2部、3部 ユメタンテスト	10			
		中間考査		10			
	6	Lesson8 Shodo Old and New	ユメタン ワークブック		・ 伝統文化を新しいスタイルで		
	7	期末考査	練習問題・単語テスト・会話	9	部分否定/can be done		
		Lesson 9 Water World		8	・ 水族館、今と昔/ 関係代名詞の制限用法 have been done		
	9	Lesson 10 A Long Friendship	会話・プリント・小テスト ワークブック	10	・ 日本とトルコの友好関係		
		中間考査		10			
	10	Enjoy Reading!	イディオムクイズ	10			
	11	I'm Afraid of Mnju!	会話・プリント・小テスト ワークブック	10	・ 未知語の意味を推測する。		
		期末考査	会話・プリント・小テスト	8			
	12	学年末考査	練習問題・単語テスト・会話	8	・ 関係代名詞・いろいろな受け身・過去完了		
		1		会話・プリント・小テスト・ワークブック	8		
備考：2年		コミュニケーション英語Ⅱ		合計	90		

教 科 名	英語	科目名	英語表現Ⅰ	単位数	2 単位
対 象 学 年	2年総合・3年総合	履修形態	選択	科目コード	
科目の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
学習内容の概要	・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 ア与えられた話題について即興で話す。 イ読み手や目的に応じて簡潔に書く。 ウ聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解	
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えることができるか。	様々な話題に関して、情報や考えなど相手が伝えようとする事柄を的確に理解することができるか。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。	
評価方法	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	・ presentation, ・ 会話テスト ・ 授業中の会話・表現	・ 小テスト(復習テスト) ・ 定期考査(中間考査、期末考査)	・ 定期考査(中間考査、期末考査)の 考査平均点×0.8	
教科書、教材など	New One World English ExpressionⅠ(教育出版)				
授 業 形 態	一斉				

年間授業計画

学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法
1 <						

教 科 名		外国語	科目名	中国語		単位数	2 単位
対 象 学 年		3 年総合選択	履修形態	選択	科目コード		
科目の目標		生徒の興味と関心をひくような日常的話題の内容理解を図りながら、基礎的な「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を養い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
学習内容の概要		中国語を読んで内容理解の能力を養うとともに、外国に興味・関心を持たせ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		コミュニケーションに関心をもち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、情報や考えなど、相手に伝えようとする事柄を、英語で話したり、書いたりして、適切に表現することができるか。適切に音読することができるか。	様々な話題に関して、情報や考えなど相手に伝えようとする事柄を的確に理解することができるか。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。		
評価方法		ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	定期考査、小テスト、ノート等の提出物の内容、授業態度	定期考査、小テスト、ノート等の提出物の内容、授業態度	定期考査、小テスト、ノート等の提出物の内容、授業態度		
教科書、教材など		＜高校版＞中国語はじめの一步（白泉社出版）					
授 業 形 態		一斉授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価方法
1	4	第11課 你在干什么呢? Ni zai gan shen me ne? 決まり文句	前年度の復習	6	今まで習った中国語の文法などを復習する。		提出課題・小テスト・定期考査の成績を総合して評価
	5		14	「在～」>>主語+在+動詞 「～しに来る・行く」の表し方>>主語+来・去（+場所） +動詞+目的語			
	6						
	7						
	8		10	挨拶、依頼、お礼、お詫び、尋ねるなど			
2	9	中国語検定学習	20	11月に行う中国語検定に向けて集中学習			
	10						
	11						
	12	歌	10	中国語の歌を学習			
3	1						
	2						
	3						
備考：			合計	60			

教 科 名		外国語	科目名	中国語		単位数	1 単位
対 象 学 年		3 年調理	履修形態	必修	科目コード		
科目の目標		生徒の興味と関心をひくような日常的話題の内容理解を図りながら、基礎的な「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を養い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
学習内容の概要		中国語を読んで内容理解の能力を養うとともに、外国に興味・関心を持たせ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		コミュニケーションに関心をもち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、情報や考えなど、相手に伝えようとする事柄を、英語で話したり、書いたりして、適切に表現することができるか。適切に音読することができるか。	様々な話題に関して、情報や考えなど相手に伝えようとする事柄を的確に理解することができるか。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。		
評価方法		ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	定期考査、小テスト、ノート等の提出物の内容、授業態度	定期考査、小テスト、ノート等の提出物の内容、授業態度	定期考査、小テスト、ノート等の提出物の内容、授業態度		
教科書、教材など		中国語はじめての一步（白水社出版）					
授 業 形 態		一斉授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価方法
1	4	第8課 你从几点开始打工? 第9課 你去过美国吗?你吃饭了吗?	前年度の復習	2	今まで習った中国語の文法などを復習する。		提出課題・小テスト・定期考査の成績を総合して評価
	5		8	時間量>>主語+動詞+時間量（+目的語） 「得」>>主語+得+動詞 「从」>>主語+从+時間・場所+動詞			
	6			「过」>>主語+動詞+过			
	7			8			
8	5						
9		4	文法のまとめ、決まり文句				
10							
11							
2	9	第10課 你会唱歌儿吗?	助動詞「能」「会」 動作の様態を言う表現 動詞の重ね型	3	台湾や中国の文化理解体験など		
	10						
	11						
3	1		総復習	3			
	2						
	3						
備考：			合計	30			

教 科 名		情報		科目名	情報の科学	単位数	3 単位
対 象 学 年		3 年 健康スポーツ・総合		履修形態	一斉	科目コード	
科目の目標		・ 高度情報化社会へ向けて、情報の質と量の多様化が進む中、正しいものもあれば、価値のないものもある。それらの中から意思決定に必要な情報を、短時間で効率よく、的確につかめることができる。指す。 ・ 国際化の時代において、常に新しい環境で新しい人々との関係を作っていくうえで、お互いに相手のことをよく知り、よく理解し合うことが必要である。そのために、自分のことを相手に短時間に印象深く知ってもらえるよう目指す。					
学習内容の概要		パソコンの実習、ワープロ・表計算・プレゼンテーションを学ぶ 情報社会の課題について映像使って復習（情報モラル、法律等） 自分自身の振り返り（自分史）の作成					
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）		関心・意欲・態度		思考・判断	技能・表現	知識・理解	
		・ 授業態度 ・ 実習課題 ・ 出席状況		前期・後期の期末時に 実技試験を実施。	各資格試験を受験 する。 ・ ビジネス文書 （7月・11月） ・ 情報処理	定期考査 （実技・筆記試験を実施）	
評価方法		・ 取組む姿勢（授業・検定受検・定期考査等） ・ 提出物の状況 ・ 出席状況					
教科書、教材など		社会と情報（東京書籍） ビジネス文書実務検定模擬試験問題集					
授 業 形 態 授 業 形 態		実習室での授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）		時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
1 学期	4 5 上旬	ワープロ（Word） の復習。	2 年生で習得したタイピング・文書構 格試験3 級レベル）の確認と復習。 画像、図、絵の貼り付けをはじめ、多 機能機能を習得する		3 5	定期的に計測を行い完成度 度、正確性を高める。	定期考査
	6	ビジネス文書検定					
2 学期	7 8 9	受験準備 進路調べ学習	1 学期末考査後、受験先の選択 および試験対策の準備 ※受験希望先の調べ ※自分史の作成 就職（履歴書） 進学（志願書）作成準備		2 5	定期考査 （1 学期末考査）で理解度を 確認する。	定期考査
	10 11 12	表計算（Excel）の 復習。	2 年生で習得した表計算 （Excel）確認と復習。 データを入力 ワークシートの編集 ※ 列の挿入・削除 ※ 移動・コピー ※ データの修正 ※ オートフィル機能 ※ 関数の活用 グラフの作成等		2 5	定期考査（2 学期中間 期末考査）で理解度を 確認する。 クラスの中で発表会を 行う。	
3 学期	1 2 1	パワーポイント応用	・ テーマ決め（卒業作品） ・ 資料収集 ・ スライドのレイアウト および・編集・原稿作成 他				授業で入力 処理した 問題 定期考査 授業で製作 した作品 定期考査
					8 5		

教 科 名		情報		科目名	情報演習		単位数	2 単位	
対 象 学 年		3 年総合選択		履修形態	必須	科目コード			
科目の目標		情報化の時代において、情報を受信するだけではなく、自らも情報を発信することを経験してみる。 ・ 動画編集を習得 ・ 言葉で伝えることが出来ないため、「伝わる」ためにはどのようにすべきか考える。 ・ 自己責任・問題解決等、さまざまな問題（情報社会における問題）に対応できるよう目指す。							
学習内容の概要		・ 個人作成および、1 班 3 ～ 4 人の班編成で、テーマ内容決定 ・ 資料収集・資料作成・リハーサル・本番を全員で行なわせる為、チームワークを心掛けさせる。 ・ 人前で発表するという緊張感を持ってもらう							
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解	
		・ 授業態度 ・ 動画編集への理解度 ・ 出席状況		・ 課題作成へのイメージ		・ オリジナリティ ・ 編集表現		・ 定期考査	
評価方法		・ 課題提出、学習意欲、学習態度など、学習に取り組む姿勢を評価する。							
教科書、教材など		・ 発表内容（テーマ）を決定する ・ テーマに沿った資料収集をし、動画編集ソフトで作成。 ・ ストーリーをしっかりと考える。（PDCA） ・ 発表（旬彩展または選択の生徒の前で作成映像を発表）							
授 業 形 態									
年 間 授 業 計 画									
学期	月	単 元		学 習 内 容 (活動・実験・実習等)		時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価 方法
	4 月 ～ 8 月			1. MicrosoftVisioを使用しての図面作成。		10	・ 図面作成の技術を高めると同時に、空間認知能力を高める。		
				2. VisualBasicを使用してのプログラミング		10	・ CMが伝えようとしている目的は何かを考える。		
	9 月 ～ 1 月			3. 音楽編集		10	・ 曲の編集（切り取りから貼り付け）をして技術を高める。		
				4. 動画編集の魅力		10	・ パワーポイントでの発表と違い、自分の思いを口ではなく映像で表現することの難しさを知る。		
				5. 動画編集について					
				6. 個人でテーマを決めて、動画の作成を行う。		10	・ テーマ・目的を明確にして、構成をしっかり練り、作成を行う。 ・ 課題作成		
				7. グループでテーマを決めて、動画の作成を行う。		20	・ 人任せにならないために、グループでの役割を決める。		
備考：		合計				70			

教 科 名		福 祉 科	科目名	福祉基礎・介護演習		単位数	4 単位		
対 象 学 年		第 3 学 年	履修形態	選択履修	科目コード				
科 目 の 目 標		社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社旗福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる。							
学習内容の概要		○社旗福祉に関する知識や技術を断片的に捉えるのではなく、社会福祉施設の見学、実習、ボランティア活動などを通して、活用できる知識と技術を身に付けさせる。 ○社会福祉教育においては、知識と技術の習得にとどまらず、社会福祉関連の職業に従事擦する者として求められる福祉観や倫理観を高めさせる。 ○福祉社会の一員として生活上の問題に関心を持ち、人間としての尊厳の保持やプライバシーの尊重など自立生活を支援する態度を養う。							
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解				
		高齢化社会の諸問題を取り上げ、これに追隨する諸課題に目を向けさせるとともに、解決策を思考する。	福祉問題の解決策を考えるとともに、人間としての尊厳を守る生き方を極めたい。	介護の現場を「生の目」で検証させることにより、理論どおりにはいかに人間社会の複雑さが見えてくる。	高齢化社会の諸問題に目をむけ、法律・制度等に解決策を見出すのではなく、人間としての資質・生き方に解決策を見出させる。				
評価方法		授業の取り組み及び定期 期考査、介護実技内容により 評価する	授業の取り組み及び定期 考査、介護実技内容により評 価する	授業の取り組み及び定 期考査、介護実技内容によ り評価する	授業の取り組み及び定期 考査、介護実技内容により 評価する				
教科書、教材など		一般財団法人 長寿社会開発センター 介護職員初任者研修テキスト第1・2・3巻							
授業形態		一斉授業・実技演習 施設見学及び介護実習							
年 間 授 業 計 画									
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間 (実習)	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法			
1	4 ・ 5	障害の理解 <div>中間考査</div>	○障害の基礎的理解 ・ 障害者福祉の基本理念 ○障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴及びかわり支援 ・ 身体障害、知的障害、精神障害 ○家族の心理、かわり支援の理解 ・ 家族への支援	24	○障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解するとともに、介護における基本的な考え方について理解する。 ○各障害の内容・特徴および障害に応じた社会支援の考え方について理解を深める。	授業の取り組み及び定期考査、介護実技内容により評価する			
	6 ・ 7 ・ 8	こころとからだのしくみと生活支援 <div>期末考査</div>	○介護の基本的な考え方 ・ 介護の基本的な考え方 ・ 重度化防止の視点 ○介護に関する心のしくみの理解 ・ 高齢者の心理 ・ 運動動作に関する基礎知識 ・ 神経系に関する体のしくみ	40	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護技術を習得する。 【施設へ校外学習・実技演習】2時間 【高齢者施設現場実習】24時間				
2	9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	 <div>中間考査</div> <div>期末考査</div>	○生活と家事 ・ 家事と生活の理解 ・ 家事援助に関する知識と生活支援 ○移動・移乗に関連した心と体のしくみ ・ 移動・移乗の介護の基本 ・ 体位変換・姿勢の基本知識 ○食事に関連した心と体のしくみ ・ 食事の介護 ・ 口腔ケアの支援技術 ○入浴、清潔に関連した心と体のしくみ ・ 入浴介助の基本 ・ 清拭介助 ○排泄に関連した心と体のしくみ ・ 排泄介助の基本	44	○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術及び知識を習得する。 ○要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則について理解し、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を習得する。 ○入浴・排泄の意味とそれに関する環境整備や方法を理解し介助技術を習得する。				
	1 ・ 2	総合生活支援技術演習 <div>学年末考査</div>	○睡眠に関連したこころとからだのしくみ ・ 睡眠の介護 ○死にゆく人に関したこころとからだのしくみ ・ 老いと衰えの理解とその対応 ○要介護1、要介護3 事例介護演習 ○就業への備えと継続的な研修	12	○睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備と、睡眠に関するからだのしくみを理解するとともに、介助技術を習得する。 ○ターミナルケアの考え方、対応のしか た・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携を理解する。 ○介護職として備えるべき資質・知識・介護技術等を事例研修により再確認する。 【介護職員初任者研修・終了試験】 ○2年間の授業を振り返り、学んだことについて再確認をする。				
備考		合 計		120					

授業の取り組み及び定期考査、介護実技内容により評価する

教 科 名		家庭	科目名	公衆衛生		単位数	1 単位
対 象 学 年		3 年調理	履修形態	必修	科目コード		
科目の目標		健康の維持・増進に寄与する食生活の重要性を認識させ理解させる					
学習内容の概要		我が国の健康の現状とともに、調理師法、健康増進法及び食育基本法などの健康づくりや食生活の向上に関する法規や関連する対策及び活動について理解することを通して、調理師が果たすべき役割を理解する					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		人々の健康を守る社会の仕組みを理解してその知識を積極的に活用しようとする	人々の健康にとって問題になっていること又、家族を含めた自身の健康管理を把握、認識し、理解する	事象を考查し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する	衛生統計を理解し、感染症における基本的な概念、環境保全全般の知識を得、公衆衛生と身体との関係性を理解し、知識を身に付けている		
評価方法		授業への取り組みの状態の観察、考查	授業への取り組みの状態の観察、考查	授業への取り組みの状態の観察、考查	授業への取り組みの状態の観察、考查		
教科書、教材など		公衆衛生学（全国調理師養成施設協会）					
授 業 形 態		一斉授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価 方法
1	4	環境と健康 生活環境	現代の生活環境と衛生	15	生態系、食物連鎖などの現代社会の環境と衛生を学び理解させる		観察 考查
	5	中間考查					
	6	期末考查					
2	9	中間考查	大気、水、住居、廃棄物放射線		人間の体内水分量や水道法、地球の水についてまた地球の今の環境条件について学び理解させる		観察 考查
	10	環境条件					
3	11	期末考查	環境汚染の問題と対策	15	現代の公害や環境汚染について学び対策を考え理解させる		観察 考查
	12	環境汚染と対策					
	1	学年末考查		5			
	2						
	3						
備考：			合計	35			

教 科 名		家庭	科目名	食品衛生		単位数	2 単位
対 象 学 年		3 年調理	履修形態	必修	科目コード		
科目の目標		食物は人に対して食中毒等の健康被害をもたらし、場合によっては生命を左右することがあるためこれを認識し理解する					
学習内容の概要		食中毒の原因物質となる病原微生物や寄生虫、化学物質などの性状や毒性を学び、その対処方法や予防方法などと調理師自身の健康管理の重要性を学習し、HACCPの精神を導入するなど「清潔で衛生的な食品の取り扱い」を学び、今日盛んに提唱されている「食の安全・安心」を提唱できる確かな基礎知識が身につくように学習する。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		食品に由来する微生物の種類、増殖条件や健康危害を理解してその知識を積極的に活用しようとする。	食中毒の基礎知識を理解し、科学的な知識や手法が食品衛生対策上、理解した上で判断力がある。	事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	食品衛生における基本的な概念、微生物の知識を得、調理師として食中毒予防に努める基礎知識を身に付けている。		
評価方法		授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査		
教科書、教材など		食品衛生学（全国調理師養成施設協会）					
授 業 形 態		一斉授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価 方法
1	4	ウイルス性食中毒 p 76～	ノロウイルス食中毒 ウイルス性食中毒の 予防	30	ウイルスによる感染から予防、処理の仕方を学び理解させる		観察 考査
	5						
	6	中間考査					
	7						
		期末考査					
2	9	自然毒食中毒	動物性、植物性自然毒 食中毒の予防	30	自然界にある自然毒の原因、症状、種類などを学び理解させる		観察 考査
	10						
		中間考査					
3	11	食品安全対策	安全対策とは				
		期末考査					
	12		対策に関わる法律、行政	15	公衆衛生の視点で制定された食品衛生法を学び行政がどのように関わっているか理解させる		
	1						
	2						
		学年末考査					観察 考査
	3						
備考：			合計	75			

教 科 名		家庭	科目名	食品	単位数	1 単位	
対 象 学 年		3 年調理	履修形態	必修	科目コード		
科 目 の 目 標		調理師を目指すため、調理師の社会的使命として社会的に重い職業であることを理解させ食品について学習する。					
学習内容の概要		食品の特性を知り、美味しく安全な食事を提供し、健康の維持増進をはかる。食の安全を確保する。調理技術や調理様式を受け継ぎ、さらに新たな調理法を創造し、文化継承の役割を担う。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		食品について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	食品について課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	食品に関する知識や技術の向上のために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	食品学を学ぶ意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。		
評価方法		・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート） ・定期考査		
教科書、教材など		公益社団法人 全国調理師養成施設協会 『食品と栄養の特性』					
授 業 形 態		一斉授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法	
1	4	食品の特徴と性質	植物性食品とその加工品 野菜類 きのこ類	4	野菜類、きのこ類、藻類の特徴や加工品について理解する。	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価	
	5	中間考査	藻類	6	魚介類、食肉類、卵類、乳類の特徴や加工品について理解する。		
	6		動物性食品とその加工品 魚介類 食肉類 卵類 乳類	9	油脂類、菓子類、嗜好飲料類、調味料および香辛料類、調理加工食品類、ゲル状食品、特別用途食品の特徴について理解する。		
	2	7	期末考査	その他の食品 油脂類 菓子類 嗜好飲料類 調味料および香辛料類 調理加工食品類 ゲル状食品 特別用途食品	7		食品の加工の目的や方法、利用方法の特徴を理解する。
8		中間考査	食品の加工 食品の加工の目的 食品の加工法 微生物の利用	4	食品の貯蔵の目的と方法について理解する。		
9			食品の貯蔵 食品の貯蔵の目的 食品の貯蔵法	5	食品の生産や輸入について理解する。		
3		10	食品の加工と貯蔵	食品の国内生産と輸入 わが国の食品の生産 海外から輸入される食品	5		食品の流通の仕組みや流通経路について理解する。
	11	食品の流通 食品の流通の仕組み 各食品の流通経路					
	12	学年末考査					
備考：			合計	35			

教 科 名		家庭	科目名	食文化	単位数	1 単位
対 象 学 年		3 年調理	履修形態	必修	科目コード	
科 目 の 目 標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食文化の伝承と創造を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。				
学習内容の概要		（１）食文化の成り立ちや日本と世界の食文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 （２）食生活の現状から食文化に関する課題を発見し、食文化の伝承と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）食文化の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度 食文化について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	思考・判断 食文化について課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	技能・表現 食文化に関する知識や技術の向上のために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	知識・理解 食文化の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。	
評価方法		・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）	・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート） ・定期考査	
教科書、教材など		公益財団法人 全国調理師養成施設協会				
授 業 形 態		一斉授業				
年 間 授 業 計 画						
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	食と文化	食文化の成り立ち 食文化とは何か 食文化の相対性	3	食文化の成り立ちについて理解する。	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5	中間考査	多様な食文化 自然環境と食文化 宗教と食物禁忌	3	多様な食文化について理解する。 宗教と食物禁忌について理解する。	
	6		食法・調理法などの多様性 食文化の共通化と国際化 食の伝播と変容	3	世界での食文化の共通化や国際化について理解する。	
2	7	期末考査	異文化交流による食の国際化 食生活の変容と食文化の創造 世界の食事情	4	日本の食文化の歴史について理解する。	
	8		日本の食文化史 原始（縄文・弥生時代） 古代（古墳・飛鳥・奈良・平安時代） 中世（鎌倉・室町・安土桃山時代） 近世（江戸時代） 近代（明治・大正・昭和時代初期） 現代（終戦以降）	5	日本料理の特徴や様式、作法などについて理解する。	
	9	中間考査	日本料理の食文化 日本料理の特徴 日本料理様式 日本料理の食事作法	3	各地域の行事食と郷土料理について理解する。	
	10		行事食と郷土料理 食文化の地域性 行事食・郷土料理	2		
	3	11	期末考査	現代の食生活と未来の食文化 食生活の現状 食文化の未来	4	
12		西洋料理の食文化 西洋料理の変遷 西洋料理の特徴 西洋料理様式 西洋料理の食事作法		4	中国の食文化について理解する。	
1		学年末考査	中国の食文化 中国料理の変遷 中国料理の特徴と系統 中国料理様式 中国料理の食事作法 その他の国の料理の食文化	4		
3			アジアの料理 中東の料理 中南米の料理			
備考：			合計	35		

教 科 名		家庭	科目名	総合調理実習		単位数	3単位
対 象 学 年		3 年調理	履修形態	必須	科目コード		
科 目 の 目 標		衛生管理、献立・調理、食事環境を総合的に学ぶことにより、調理師の業務全体を理解する。 集団調理の基本技術を習得する。					
学習内容の概要		調理施設、設備について学び、食べる側、作る側、サービス側集団調理実習 さー					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		実習に向かう態度や抗議中の姿勢をもっている。	実習中に味の濃い薄いについて調整しているか。進行状況を把握し、時間をみて動けている。	お客様に提供する事を常に意識し、包丁、まな板の扱いが丁寧で最終的に盛りつけが美しく、商品価値のあるものが作れている。	お客様の満足度の高い料理を提供しようと真摯に調理に向かおうとする姿勢を知識や技術を探求し、行程や強調性をもてている。		
評価方法		授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	盛りつけ方や作業中の片付け具合等の観察で評価する。	A・B・C・D・E 5・4・3・2・1 定期テストにより評価する		
教科書、教材など		新調理師養成教育全書 必修編 総合調理実習					
授 業 形 態		一斉、班別学習					
授 業 形 態							
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価 方法
1	4	① 集団調理の施設、設備について	H A C C P や調理施設について	10	・ 一、二年時の復習		授業中の行動、取り組み方の観察や技術考査などにより評価する。
	5	② 大量調理の特性と調理技術 [期末考査] 接客サービス	大量調理の特徴や調理技術について	10	・ 下処理や下味のつけ方を適切に理解する。		
	6			20	・ お客様に対する言葉使いや接客者としての意識を高めプロとして使える知識を習得する。		
	7				・ 飲食店にあった音楽、インテリアなどの適切な環境作りを理解する。		
2	8	④ 食卓の演出	快適な食事環境について	10			
	9			25	・ お金をいただき調理することのむずかしさを理解する。		
	10						
	11	⑤ 弁当販売やレストラン開業にむけて	弁当作り、大量調理実習	25			
12							
3	1	⑥ [期末考査] 飲食店開業計画	開業の心構え 飲食店の基本戦略について 開業に向けての流れ	15	・ 自分の夢を反映させたお店作りを考え、現実的に計画し飲食業を取り巻く環境を理解し安易に開業したのでは取り返しのつかない結果を招くことがあるということを理解する。		
	2	⑦ 総合調理実習まとめ [学年末テスト]		15	学んできた事を復習し理解する。		
	3						
備考：		合計		105			

教 科 名		家庭	科目名	調理実習		単位数	1単位	
対 象 学 年		3年調理		履修形態	必須	科目コード		
科目の目標		1, 2年で学んできた事をより実践的に総合的にマスターします。お弁当の販売やレストランの運営などを想定し自分の進路や夢に向かって調理師としての自覚を持ち調理を楽しむ。						
学習内容の概要		お客様に料理を提供する事をしっかりと考え、より素早く、丁寧に料理をする事を学ぶ。就職に向けそれぞれの進路に向けより専門的に料理を学び、研究しながら授業にあたる。						
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
		実習に授業に向かう態度や動きを考え行動し、食材や料理に対する関心をもっている。	試食や味の違いについて研究する。 実習中に味の濃い薄いについて調整しているか。 進行状況を把握し、時間をみて動いている。	お客様に提供する事を常に意識し、包丁、まな板の扱いが丁寧で最終的に盛りつけが美しく、商品価値のあるものが作れている。	お客様の満足度の高い料理を提供しようと真摯に調理に向かおうとする姿勢を知識や技術を探求し、行程や強調性をもっている。			
評価方法		授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	試食の際の盛りつけや作業中の片付け具合等の観察で評価する。	A・B・C・D・E 5・4・3・2・1 技術テストにより評価する			
教科書、教材など		新調理師養成教育全書 必修編 調理実習、調理実習レシピなど						
授 業 形 態		一斉、班別学習						
年 間 授 業 計 画								
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)		評価 方法	
1	4	① 一、二年時の復習	お弁当、定食販売	5	・一、二年次に学んだ事を復習し、出汁のとり方、火の入れ方焼き菓子の特性など全般的に理解する。 ・三枚おろし、姿作りなど調理に見合った魚のさばき方の工程を理解する。 ・イタリアン、フランス料理調理用語を理解する。 ・技術のいる飾り切りや食材の旨みの引き出しや火の加減などを理解して調理する。 ・整理整頓して調理師として調理場の整頓とする大切さを学ぶ。 ・現場の飲食店での研修をへて調理師の大変さ、難しさを体験し現場実習にあたる。また飲食店での仕事の楽しさを学ぶ。 ・お金をいただき料理することの難しさを理解する。 ・生き物の大切さ、衛生管理の大切さを学ぶ。 ・講師を招いて中華料理を専門的に学ぶ。 ・西洋料理のコース料理の肉料理、魚料理、デザートを専門的に学ぶ。 ・高校生レストランの企画、運営、調理、サービス等飲食店経営を通して理解する。 ・整理整頓して調理師として調理場の整頓とする大切さを学ぶ。 ・三年間の復習をしながら調理の難しさ、楽しさを実感しこれからの進路や生活に活かす。		授業中の行動、 取り組み方の観察や技術考査などにより評価する。	
	5	② スイーツ	焼き菓子、ゼラチンの性質	5				
		③ 魚のさばき	握り寿司、お造り					
		④ イタリアン	パスタ、リゾット					
		⑤ フレンチ	オープンや油の温度の扱い方					
2	6	⑥ 日本料理	飾り切りや食材の性質を生かした料理	5				
		技術テスト						
	7	⑦ 大掃除	棚の整理、お皿の管理					
	8	⑧ インターンシップ	飲食店での校外実習					
	9	⑨ 和洋折衷弁当作り	お客様よりご注文のお弁当販売					
	10	⑩ 食品衛生、公衆衛生の時間と合同で校外実習	大山乳業、食肉衛生検査所にて校外実習					
	11	⑪ 中華 ゲストティチャーを招いて	中華料理の種類と調理法					
	12	⑫ 西洋料理	ヴィアンド、ポワソン アントルメ					
3	1	⑬ お弁当販売をして技術向上	家族の方、地域の方に料理の販売（高校生レストラン）	5				
		技術テスト						
	2	⑭ 大掃除	棚の整理、お皿の管理					
	3	⑮ 三年間のまとめ	1年生の基礎から2年生の応用、3年生になってから学んだ事を振り返り学習する					
備考：			合計	35				

教 科 名		家庭	科目名	調理理論		単位数	1 単位
対 象 学 年		3 年調理	履修形態	必修	科目コード		
科目の目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的に調理し、健康の保持増進に寄与する食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。					
学習内容の概要		（１）調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する記述を身につけるようにする。 （２）食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
		調理について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	調理について課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	調理に関する知識や技術の向上のために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	調理の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。		
評価方法		・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート） ・定期考査		
教科書、教材など		公益社団法人 全国調理師養成施設協会 『調理理論と食文化概論』					
授 業 形 態		一斉授業					
年 間 授 業 計 画							
学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価	
1	4	調理設備・器具と熱源	調理施設・設備とは	5	調理施設・設備の特徴や種類について理解する。	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価	
	5	中間考査					
	6		調理器具 非加熱調理器具	20	調理の目的や規模に応じた調理器具の選択ができるようになる。		
	7		加熱調理器具		非加熱調理器具、加熱調理器具の種類と特徴について理解する。		
	8	期末考査	その他				
	9	食品の調理科学	食器・容器 材質別の食器・容器の特徴 料理別の食器の種類と特徴		料理にふさわしい食器に盛り付けることで見栄えが良くなることを理解し食器が選択できるようになる。		
	10		調理と熱源 熱源の種類と特徴		熱源の種類と特徴について理解する。		
	11	中間考査	熱効率				
	12	メニュープランニング	メニュープランニングの重要性について	5	メニュープランニングの重要性について理解する。		
	1						
	2	外食産業の市場規模と動向	外食産業の市場規模 外食産業の売り上げ 変化する外食産業と社会のニーズ	5	外食産業のニーズの変化について理解する。 外食産業の成り立ちを理解する。		
	3	学年末考査		15			
備考：			合計	35			